

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140 9 145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3207)0546
 FAX 03(3207)3918
 E-mail:shimpo-h-c@uccj.org

発行人 竹前 昇
 編集主筆 竹澤 知代志
 印刷所 株式会社きかんし

メッセージ

ヨハネの黙示録 三章二〇節

扉を開いて



藤掛 順一

に來る前の下見に來られた方もあり、教会の敷居を低くし、入り易くするという効果も出ているようです。

それの教会はいらぬな仕方であり、教会の敷居を低くし、入り易くするという効果も出ているようです。

秘密結社化する教会

教会が地域の人々に向かつて扉を開き、迎え入れる姿勢を具体的に示すことは大事なことです。それはある意味当たり前のことである。

ています。そのようなつもりはなくても、自分たちの間でしか通用しない言葉や論理に凝り固まり、結果的に世間の人々に対して扉を閉ざしているという印象を与えてしまっているのではないかと、私たちは自らを振り返るべきでしょう。

主イエスを迎えるために

教会の扉は、象徴的な意味で開かれていなければなりません。けれどもそれは、単に世の人々を一人でも多く教会に迎え入れるためだけのことではありません。教会の、そして私たちの、閉ざされてしまいがちな扉

を、主イエス・キリストがたたいておられるのです。主イエス・キリストが私たちの心の扉の外に立つてたたいておられ、私たちが扉を開くことを待っておられるのです。私たちが扉を開くのは、その主イエスをお迎えするためなのです。

伝道する教会へ

教会が扉を開くのは、こ



二昔も前のこと。重度の身体的障害を持つ方々と月一回の礼拝を一緒に守っていた。日常会話も不自由な人が多く、讃美歌を歌うことが困難なことだった。少し歌える人も、大幅に音を外す者に引きずられてしまふ。一〇数人の讃美は悲惨な状態になるのが常だった。讃美歌が無くても礼拝は成立する、それも考えたのだが、メンバーは歌いたらしい。ヒムブレイヤーは未だ持っていない。音楽を録音したものを持参する。必死でこの音を聞いた。メンバーがトンドモなく外れた音を出しても、その声には耳を閉ざし、ひたすら音楽だけを聞く、そんな器用なことが出来るようになった。メンバーには関係なく、一人で正しく歌えた。初めて正しく歌えたその瞬間に目が覚めた。何をやってきたのだらうと。これでは讃美でも何でもない。次の礼拝からテープも止めた。みんなで歌った。思いっきり音を外して、気持ち良く歌っている。祈りについては同じこと。聞き取ることも難しい言葉に、しかし、心を打たれ、アーメンを言った。

会堂開放

私たちの教会は昨春秋から、「会堂開放」を始めました。私たちの教会堂は一九二六年に建てられた、ご覧のように大変美しい建物です。新来者にとって決して入り易くはない、敷居の高いものですが、他方横浜市の歴史的建造物に指定されており、それらを巡るツアーのコースにも入っています。見学を希望する人は、しかしこれまでは、正面

玄関近くに事務所を設けることができないという構造上の制約もあり、週日には扉を開きませんでした。それをこのたび、教会員の中から奉仕者を募り、毎週木曜日から土曜日の午前十時から午後四時まで、正面入口の受付に奉仕者が二人ずつ待機して、来訪者を迎える必要があれば建物の説明などをすると、体制を整えました。開放中、外には「会堂開放中」という看板を出し、気候のよい時には扉を開けたままにしておいて、誰でも入れること

をアピールしています。始める前は、果してどれくらい人が来るだろうか、一日中待ちぼうけになるのでは、と不安にも思っていました。実際にはほぼ毎日、案外多くの方々が訪れてきています。

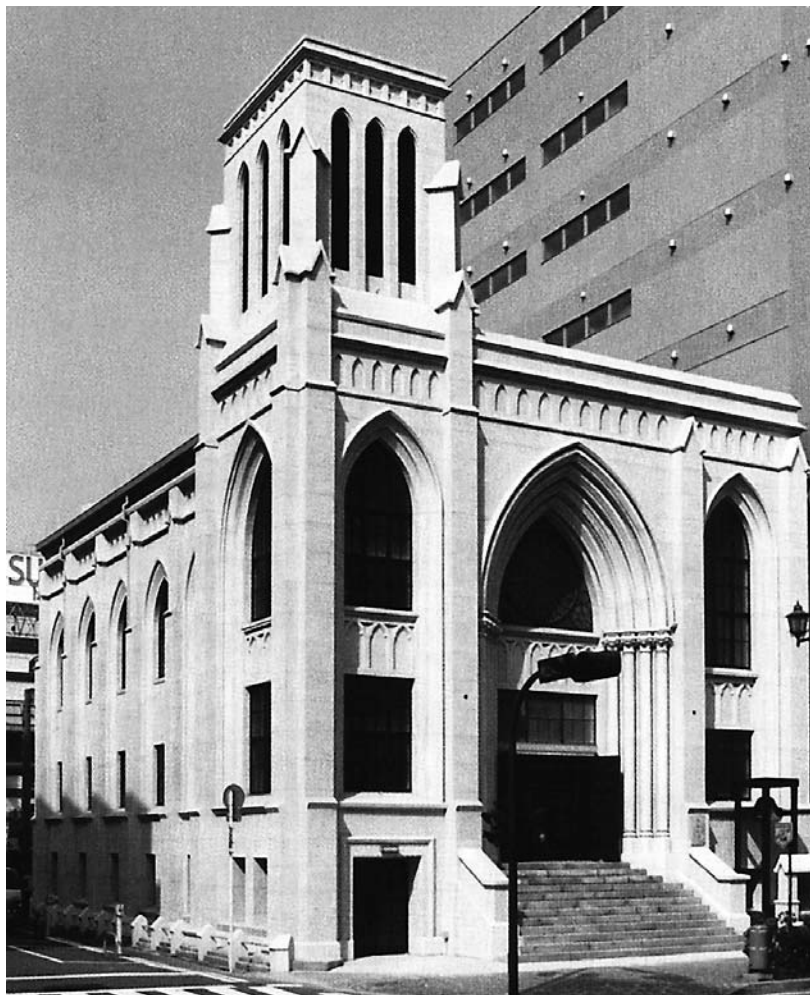
私どもの教会はオフィス街にありますが、近くの会社に勤めている人が、一度入ってみたいと思っていたが、今まで週日にはいつも閉まっていた。入れなかつた」とお昼休みに来たり、横浜のキリスト教史跡を巡るツアーの方々が立ち寄りな

主イエスによる派遣

主イエスは、そのような私たちの閉ざされた扉をたたき、入って来られます。復活された主イエスが、ユダヤ人を恐れて家の戸に鍵をかけて閉じ籠っていた弟子たちのところに来られ、その真ん中に立ち、あなたがたに平和があるように」と語りかけて下さったのと同じことが私たちに起るのです。主イエスが入って来て下さったことにより、弟子たちは喜びを与えられ、そして主イエスによって、「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」と派遣されたのです。主イエスは彼らに息を吹きかけ、聖霊を受けなさい。だれの罪

でも、あなたがたが救せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが救さなければ、赦されないまま残る」と言われました(ヨハネ福音書二〇章一九、二二節)。このようにして弟子たちは、聖霊の力をいただいた。扉を開いてこの世へと出ていったのです。このことは私たちに、扉を開いて主イエスをお迎えすることによってこそ、扉を開いて世に向かつて福音を語っていくことができ、扉を開いて人々を教会に迎え入れることができる、ということをお教えているのです。

を、主イエス・キリストがたたいておられるのです。主イエス・キリストが私たちの心の扉の外に立つてたたいておられ、私たちが扉を開くことを待っておられるのです。私たちが扉を開くのは、その主イエスをお迎えするためなのです。



横浜指路教会

洗礼と聖餐の共同体

「だれかわたしの声を聞

伝道する教会へ

教会が扉を開くのは、こ

伝道する教会へ

教会が扉を開くのは、こ

伝道する教会へ

教会が扉を開くのは、こ

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

100万人のキリスト者が集まった

ドイツ・ハノーファー

キルヘンタークを体験して



4日目夕方に向けた「テゼ」の集まり

五月末に五日間の日程でドイツ・ハノーファーで行われた「キルヘンターク」の報告をしてみたい。キルヘンタークとは直訳すれば「教会の日」となるが、「教会祭」というのが一番ぴったり来るように思われる。キリストを信じる者が

二年に一度集まって「キリストを祝う（つまりは「祭り」というのが趣旨だから）である。元々の起源は一九世紀末の敬虔主義的な信徒運動から始まったこの祭りに、今年は一〇〇万人のキリスト者が全国から集まった。この信徒運動は、ドイツ国内に留まらず、ヨーロッパ全体に広がる国際的な性格を持って来たため、第二次大戦中はナチから禁止されていた。その後、第二次大戦中も一七世紀のものと比べて、古いものに少し手を加えるだけで済んだ感じが変わるのだと思つた。またこの教会祭のために新たに讃美歌などが作曲されたようである。

ツ国内に留まらず、ヨーロッパ全体に広がる国際的な性格を持って来たため、第二次大戦中はナチから禁止されていた。その後、第二次大戦中も一七世紀のものと比べて、古いものに少し手を加えるだけで済んだ感じが変わるのだと思つた。またこの教会祭のために新たに讃美歌などが作曲されたようである。

複数の屋外会場に一〇万人が集まる開会礼拝から始まった。開会礼拝の感想を簡単に記すと、使われていた讃美歌が大変に明るいものであるように思つた。そこで作詞・作曲を確認すると、両方とも一七世紀のものであった。古いものに少し手を加えるだけで済んだ感じが変わるのだと思つた。またこの教会祭のために新たに讃美歌などが作曲されたようである。

「市場化」する教会祭

最近の教会祭の特徴を二つのキーワードでまとめると、「市場化」「信仰と行為」となる。

第一の点については、教会祭の拠点地として博覧会場（メッセ）が用いられるようになったことと関係する。おそろかなり以前は宿泊場所である学校と会場である（市街地の）教会という二つの拠点地だったのが、博覧会場を開催地を持つていない団体や教会会場では

の聖書研究が四〇のセクションに分かれて行われ、その後様々な行事や展示が開始する。パネル展示の数は実に七五〇以上、それだけの数の団体がドイツ福音主義教会の関係団体としてこの聖書研究が四〇のセクションに分かれて行われ、その後様々な行事や展示が開始する。パネル展示の数は実に七五〇以上、それだけの数の団体がドイツ福音主義教会の関係団体としてこの

とになる。もちろん市外から来た人たちはすべてを収容するホテルの数はなく、ほとんどの人が寝袋持参で、学校の教室を借りてこる寝をするのがこれまた「伝統」となっている。

それぞれに自分の興味にあつた団体から資料をもらい話を聞いたり出し物で楽しむのである。

もちろん入場者からすれば一箇所に集中していた方が便利であるという一方で、電車で二〇分ほどかからないと、本来主会場である教会まで行くことが出来ない。結果的に、このような教会に本拠地を持つている団体の催しに参加するためにはあえて足を運ばねばならず、「消費者」からすると、「積極的に選択しなければならぬ」ということになつてしまつたように感じられた。そのような「市場外」の団体として、たとえば自由教会や改革派教会（会場は学校）があつた。前回までは同性愛運動

満員の八〇〇〇〇人会場

最も人が集まったのは二日目夕方、ケラー大統領演説したシンポジウムで、開始前に八〇〇〇人会場が満員で閉め切られた。延べ三回ある聖書研究のうち一回、「霊性」をテーマにした聖書研究に参加した。本屋でよく見かけるカトリック神父による味わい深い聖書研究は、会場に並ぶ数ある選択肢の一つにすぎないようにも思われた。また「祈り」「説教」といった信徒の教会生活を支えるものが展示や講演からは見出しにくいようにも感じた。

第二の点については、七〇年代、八〇年代はプロگرامの傾向が「行動（アクション）」というキーワードであったのに対して、信仰と（その応答としての）行為」という変化が認められることを挙げたい。社会的なアクションの基礎を確認された。

するというのが最近の傾向だそうだが、同行してくれたシュナイダー牧師（シユトウツトガルト）から教えられるというのが最近の傾向だ。ただ、「聖餐」についてはその例に当っては、土曜に各教会で行われた聖餐式には通路を埋め尽くす人が集まってパンと杯を分かち合った。日曜日最終日に野外会場で行われた三〇万人からなる開会礼拝の聖餐の様子と併せて、印象深いものであった。

会場は毎持ち回りで行われ、二〇〇七年はケルン、次々回（二〇〇九年）がブレイメン、またローマ・カトリック教会との二回目の合同となる二〇一〇年がミューンヘンで行われると聞く。

それが感じた伝道の課題を分かち合う交わりが持たれた。

台風の近づく中、閉会を繰り返すこととなつたが、実りの多い時であった。

（辻順子報）

『三宅島伝道所』五年ぶりに礼拝

第三八回伊豆諸島連合修養会開催

第三八回を数える伊豆諸島連合修養会が、新島で伝道を語ろう」の主題のもとに、六月七日、八日、新島教会（東京都新島村本村）に於いて開催された。参加者は五六名、東支区をはじめ、東京教区内の全ての支区から集まった。

開会礼拝の後、各教会の現状報告がなされた。

今回特に時間を割いて報告されたのは、今年二月に避難解除となり、本格的に島民の帰島が始まった三宅島についてであった。

三宅島伝道所代務者の河合裕志牧師（西新井）は、二〇〇〇年七月以降休止していた同伝道所の礼拝が、五月二日に再開された様子を、次のように報告した。

「礼拝には二人が出席した。倉橋康夫牧師、富士見町」による「小さな群れよ、恐れるな」と題した。同伝道所のメンバーを励ますために持たれてい

中、今度いつ、どこで礼拝が守れるのかは、未定である。しかし、小さな群れが礼拝を守ることの恵みを感じている。また、民宿などを借りて、礼拝したい。

同伝道所のメンバーを励ますために持たれてい

た「三宅島伝道所の集い（救済委員会主催）」は、この礼拝再開をもって、その役目を終えた。

その他、特に取り上げられたのは、伊豆七島内の教会の状況。特に、兼牧のために大きな課題

を背負っている新島教会の問題が取り上げられた。間に海を挟む兼牧（新島教会と大島の波浮教会など）の現実、本州などからはうかがい知ることのできない課題が山積していることが示された。

信徒からは、台風などで海が荒れると、礼拝に牧師が来られない、相談したいことがある、と、牧師が島にいないなど、教会に常駐する牧師の必要性を訴える声が上がった。

一方、米倉美佐男東支区長（聖和）からは、それぞれの教会ができることをとした上で、という見



伊豆諸島連合修養会「新島で伝道を語ろう」



8000人収容可能なメッセ最大会場での講演

領邦教会の威信をかけて行うだけに、教会ボーイ・ガールスカウトの手伝い姿にも力が入っていた。客として楽しむよりも主催者側の楽しみの方が大きいのではないかと、訪問する楽しみと受け入れる楽しみという構図は家庭、そして伝道する教会と同じで、この教会祭にも見いだせるように思つた。

（上田彰報）



開会礼拝の屋外第二会場

「部落解放の祈りの日」運動推進

部落解放センター運営委員会

第34総会期第二回部落解放センター運営委員会が、教団会議室にて六月七日、八日開催された。

一 会計決算、および二〇〇五年度の会計予算案を審議し、それぞれ承認された。

「教団部落解放基本方針」具体化のために毎年七月第一

二 主日と定められた「部落解放の祈りの日」運動を昨年以上の教会・伝道所で実施されることを、また、い

も、毎年の「部落解放の祈りの日」運動に各教会・伝道所は積極的に関わって

状報告と解放センターへの支援および宣教師派遣のお願いに出かけたが、その報

ことに委員一同、大いに励まされた。

小川 居氏(大阪四貫島教会牧師) 四月十七日、逝

去、七三歳。北海道に生まれる。一九五七年同志社大

石岡記念 就代(久我治子) 北千里 就代(松木真一)



部落解放センター運営委員会

去る六月六日、七日の二日間、熱海駅近くのホテル熱海閣に於いて、日本基督教団所属教誨師の働きを支

「聴く」難しさを学ぶ 教団教誨事業協力会

同志社での学生時代、恩師に当たるデッソー教授による面接実習の指導を厳しく

聴くという姿勢にあることを語った。講演後、教誨の現場において教誨師が抱える

「教誨マニュアル」についての中間報告。

事務局長 小川 居氏(大阪四貫島教会牧師)

水谷 勤 柳田洋夫 (二〇〇五・五・一受允)

石岡記念 就代(久我治子) 北千里 就代(松木真一)

石岡記念 就代(久我治子) 北千里 就代(松木真一)

大阪 実りある交わりを求めて

教区 コラム

大阪教区には一四九の教会・伝道所があります。大阪台湾教会もそのうちのひとつです。

今年度の教区総会開会礼拝の聖餐式は台湾語で行われました。

今年度の教区総会開会礼拝の聖餐式は台湾語で行われました。

今年度の教区総会開会礼拝の聖餐式は台湾語で行われました。

今年度の教区総会開会礼拝の聖餐式は台湾語で行われました。

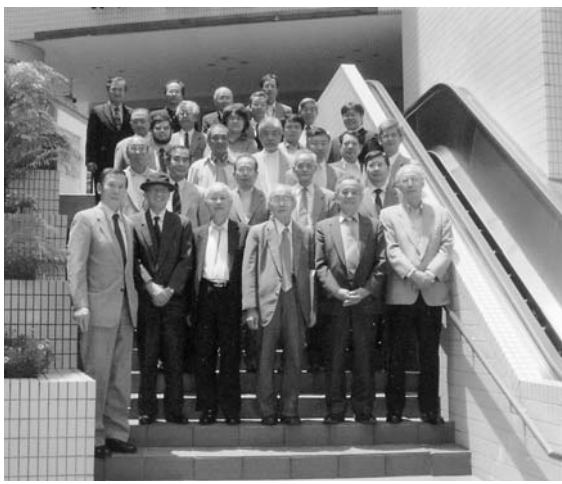
今年度の教区総会開会礼拝の聖餐式は台湾語で行われました。

今年度の教区総会開会礼拝の聖餐式は台湾語で行われました。

今年度の教区総会開会礼拝の聖餐式は台湾語で行われました。

今年度の教区総会開会礼拝の聖餐式は台湾語で行われました。

今年度の教区総会開会礼拝の聖餐式は台湾語で行われました。



参加者一同

催し

☆東京教区原理問題相談会 / 時"7月15日(金) 13時

☆東京教区四階会議室 / 問合せ "東京教区事務所" 03-3203-14270

☆東京教区原理問題相談会 / 時"7月15日(金) 13時

☆東京教区原理問題相談会 / 時"7月15日(金) 13時

☆東京教区原理問題相談会 / 時"7月15日(金) 13時

☆東京教区原理問題相談会 / 時"7月15日(金) 13時

☆東京教区原理問題相談会 / 時"7月15日(金) 13時

☆東京教区原理問題相談会 / 時"7月15日(金) 13時

☆東京教区原理問題相談会 / 時"7月15日(金) 13時

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

伝道のともしび

地方伝道の喜び

室戸教会牧師 土肥 聡

① 室戸教会は、雄大な海、真っ青の空という恵まれた自然の中に立っている。室戸と言えは、すぐに台風が連想される。昨年には台風の高波により堤防が破壊されて、尊い命が奪われた災害が起こった。しかし、自然の厳しさだけでなく、教会を取り巻いている状況もますます厳しさを増している。合併話が出てこないほど町は疲弊しきついている。一言で言えばお先真っ暗。

② その町にある教会の伝道の困難も数えると切りがない。教会の戸を叩いて訪ねてくる人は滅多にいない。毎週日曜日、午後には室戸から車で三十分離れたその地に出かけて行って礼拝を守っている。夏には多くの奉仕者を得て、三三〇軒にトラックを配布している。神の民が起されるように祈りつつ伝道を進めている。もう一つの祈りの課題は老朽化した会堂を建て直すことである。五月に隣接地に二四坪の土地を得、その費用を完済した。三年後にこの地の伝道拠点となる新会堂の完成を望み見て、みんな

③ て、はや一六年目を迎えた。教勢や教会の置かれた状況は相変わらず厳しい中であって、多くの神様ののみ業を見せていただいた。地方伝道の喜びは、小さな出来事の中に生ける神のみ業が見えてくることである。昨年のクリスマスには今までの信仰に反対であった方が思いがけなく洗礼を受け、教会は大きな喜びに溢れた。十年ぶりの洗礼式であった。そのようなみ業に大いに励まされ、現在に至っている。

④ 地方伝道に特別な方策があるわけではない。どんな状況であって、まことの神を神として礼拝し、御言葉に生かされること、牧師は御言葉を通して、福音の喜びを説き明かすことが、何よりも大切である。小さい町では、キリスト者であることはだれからも周知の事実であり、信仰を隠すことは不可能である。礼拝から始まる信仰の生活は、そのまま周りへの証しとなる。御言葉によって生かされるその姿が、キリストを指し示すのである。その証しがいられ、聖書に関心を持つ人も出てきている。室戸岬には暗い海を照らす灯台が立っている。教会もたゆまず福音の光を大きく照らす世の灯台としての使命に生きる群れでありたいと願っている。

① ないし、若者もいない。しかし、教会は五五年間室戸の地にしっかりと立ち続けてきた。多くの祈りと献身、伝道の苦労がなければ、とづくに教会は消えていたにちがいない。また、この小さい群れが今まで導かれるために、周りから暖かい支えの手が添えられてきた。四国教会の互助による謝儀援助を一年に亘って受けることにより、牧師が腰を据えて伝道に専念することができた。それに加え、香長伝道園という教会の交わりがあった。高知県東部から徳島県南部に点在する二二教会が協力

② にとつて途方もない業であるが、すべてを成し遂げられる主に委ねて進んでいくと願っている。わたしが神学校時代、夏期伝道実習に香長伝道園へ派遣されたとき、この地の伝道者が生き生きと働いている姿を見せられて、赴任希望を地方教会と定めた。室戸教会に遣わされ



中芸開拓伝道での礼拝

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

戒規執行にいたる経過
二〇〇一年五月八日付で九州教区常置委員会から粟津安和教師に対して戒規執行の提訴がなされ、教師委員会は三期にわたりこれを審議してきた。
法廷で係争中の案件に対し、教師委員会が下す決定は双方に何らかの加担ないし干渉になり、また教師委員会には法廷を超える調査をすることに限界もあつた。
損害賠償請求の民事裁判は二〇〇五年四月二日、大阪高裁で判決が出され、確定した。
その判決により事実認定をし、粟津安和教師に対し二〇〇五年六月三日、後記のように戒規を決定した。
(教師委員会)

戒 告
日本基督教団
正教師 粟津安和
上記の者 日本基督教団教師として不適切な行動があつたことを認め、戒規第一四一条戒規施行細則第一条及び第二条により戒告処分とする。
二〇〇五年六月十六日
日本基督教団
教師委員会
委員長 軽込 昇



鶴田 岬さん

弁護士から牧師に



1952年熊本県生まれ。04年、日本聖書神学校卒。弁護士業を続けながら、東京・戸山教会担任。

弁護士としての鶴田岬さんが教会に通い出したのは、三〇代の半ば、愛娘が通っていた戸山教会の幼稚園に父兄として訪れたのがきっかけだった。以来、熱心に礼拝に出席するようになった鶴田さんは、五年後に受洗した。「私は、ヤメ検なんですよ」という鶴田さんは、検事の世界は狭いんです」と、大阪地検検事を一年勤めて退職した理由の一端を説明してくれた。弁護士となつて上京した鶴田さんが、何故、教職を目指すようになったのか。

以前は、民事専門だったそうだが、この十数年来、刑事事件の扱いが多くなった。当然のことながら、多くの容疑者と接することとなる。

「人は、愛を知るために生まれてくる。神は愛を知る旅に人を遣わしている。そのことを容疑者に伝えたいと思った。相手は一人かもしれないが、福音を伝えることが出来るのでないかと考えたから」という。

五年前、弁護士業を続けながら、神学校に入学した。時間のやり繰りは無論大変だった。「大変だろうなと覚悟はしていたが、不思議なことに、神学校に入学してから仕事が増えただけで、きつと柔和になつたのだ」と述べた。

法曹界にキリスト者は数多いが、教職に進んだ人は稀である。「キリスト教は道徳ではない

「人は、愛を知るために生まれてきた。残念な事件の容疑者、死刑を求刑された者、判決を受けた者をどう弁護するか弁護士は思い悩む。以前は、法曹界は福音とは別の原理で動いているように思っていたが、今ではキリスト教原理の中で弁護し、福音を伝えることが出来ると思つている」という。

昨年春、神学校を卒業して、母教会の伝道師となつた。今は、月一回の講壇と聖研、婦人会を担当している。神学校に進むことを決めた時、卒業した時、教師試験に合格した時、会員の皆さんが本当に喜んでくれた。皆さんに支えられて今の私はある。」

アルバイト 急募

◎職種 編集・出版営業アシスタント
◎資格 キリスト者が望ましい
40歳位まで
◎待遇 委細面談
土・日・祝日休
◎交通費 支給
◎応募 履歴書(写真貼付)
7月26日(火)必着
書類選考後、面接日を通知します。
応募書類は返却しません(秘密厳守)。

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
総務課 Tel 03-3204-0421

第4回 子どもの友セミナー

～となりびとってだあ～れ?～
【日程】2005年8月10日(水)～12日(金)
【場所】伊豆高原桜美林クラブ
【講師】三宅晶子さん、宗像 基さん
【リーダー】古賀 博さん、石橋えり子さん、鳥井新平さん、飯田瑞穂さん
【参加費】25,000円(学生は、20,000円)
【主催】子どもの友セミナー実行委員会

子どもの友セミナー実行委員会事務局
〒206-0014
多摩市乙田 1225-1 永山教会内
FAX:042 374 4586(永山教会)
TEL:042 331 3269(古林)
e-mail:akio1020@cello.ocn.ne.jp(古林)